

項目		説明
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	局所進行食道癌に対する術中出血量の予後への影響
	研究目的	局所進行食道癌（ESCC）の治療は、現在術前補助化学療法（NAC）とその後の完全切除が標準である。NAC は全身性の治療が目的であり、特に微小転移の制御が目的と言われている。最近の研究では術中出血量（IBL）が食道癌を含む様々な癌の生存率の低下に関連していることが報告されている。IBL が予後を増悪させる理由は、出血によって腫瘍の漏出を促進すること、や抗腫瘍免疫を妨げることが示唆されている。ゆえに NAC が遺残微小転移を排除できれば再発は怒らない可能性がある。 本研究では NAC を施行した局所進行 ESCC 患者における IBL との関連性を調査する。さらに NAC の反応を層別化することで NAC への反応で IBL の予後への影響に違いが出るかを調査する。
	研究対象者	2011 年 1 月から 2019 年 12 月まで当院で術前化学療法 + 根治的食道切除を受けた 198 人を対象とした。 原発性食道扁平上皮癌、臨床ステージ II,III を対象とし、3 剤併用の術前化学療法または術前化学放射線療法、R1/2 切除、サルベージ手術を受けた患者は除外した。
	研究期間	西 暦 2021 年 12 月 6 日 ~ 西 暦 2023 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)		<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物 (尿・便) <input type="checkbox"/> その他 (記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	渡邊勇人
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診 療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同 研究機関および各施設 での研究責任者	なし